

様式1 平成25年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	土岐市	学校名	土岐市立鶴里小学校			
校長名	安田 茂	対象学年	全学年	人数	58名	
活動名	つるさとふるさと学習	時間数	245時間	継続年数	6年	
題材	① 自然環境（動物・植物） [ホタル・花づくり] ③ 文化（芸能・風習） [中馬馬子唄踊り・昔の遊び] ④ 地場産業（農業） [米作り] ⑤ 絆を深め、よりよりふるさとをつくる活動 [鶴里ふれあいたい・収穫を味わう会・三世代奉仕作業]					
複数年継続するための工夫改善	○「地域のお年寄りとふれあい交流活動」を年間3回計画的に実施している。各交流活動において、地域の方と児童が共に参加した振り返りと感謝の場を位置付け、地域の方の支えや諸活動の意義を再確認させるようにした。					
1 ねらい ◎「地域のお年寄りとふれあい活動」と「地域から学ぶ」取組を通して、子どもたちが地域の伝統や文化等のことを学び、思いやりの心やふるさとを愛する心を育む。 ◎地域の方と触れ合うことを通して、地域の方と共に活動するよさに気付かせるとともに、地域を大切にしようとする意欲を高める。 ◎地域の講師から学ぶ学習を通して、地域の自然や文化のよさに気付かせるとともに、地域について学ぶ楽しさや喜びを味わわせる。						
2 活動の概要 ・「鶴里ふるさと学習」では「地域のお年寄りとふれあい活動」と「地域から学ぶ」取組を行っている。「地域から学ぶ」では、運動会での「中馬馬子唄」の踊りの取組、総合的な学習の時間での3年生「昔の遊び」4年生「ホタルの学習」5年生「米作り」6年「森林保護 枝打ち」「花づくり」で地域講師を招くなどして行っている。						
(1) 「地域のお年寄りとのふれあい交流活動」 [学習課題] 地域のお年寄りと児童とふれあう活動を通して、知り合える関係を作り、交流を深める。 [学習活動] 「地域のお年寄りとふれあい活動」では「つるさとふれあい隊」「三世代奉仕作業」「収穫を味わう会」の3つの活動を行っている。						
・「つるさとふれあい隊」は、地域の高齢者の方や祖父母の方々と児童がグループごとに問題を解いたりゲームや軽スポーツをしたりして校内を回るオリエンテーリング、授業参観、祖父母給食試食会を6月に行った。 ・「三世代奉仕作業」は、グラウンドの草取り・草刈りを児童、保護者、老人会（鶴寿会）と一緒に9月に行った。 ・「収穫を味わう会」は、祖父母、老人会（鶴寿会）、保護者を招き、まず各学年の発表、次に5年生が作ったおにぎりを食べる会、最後に米作り指導者への感謝の会の3部構成で行った。						
[児童の活動の様子]						
						
「つるさとふれあいたい」一緒にゲームを楽しむ		「三世代奉仕作業」一緒に草取りに励む		「収穫を味わう会」一緒に食事を楽しむ		
・11月の「収穫を味わう会」では、地域の方の参加を心待ちにする姿があった。地区ごとに集まっておにぎりを食べる際、老人会の方のお世話をする高学年の姿や親しく会話する姿がみられた。						

## (2) 「地域から学ぶ」5年「米作り」

〔学習課題〕米作りの作業を行ったり、米作りについて調べたりする活動を通して、食糧生産の仕組みを知るとともに地域の米作りに携わる人の思いや願いがわかる。

〔学習活動〕

- 米作りの地域講師、可知井洋二さんの指導のもと、「もみまき」「田植え」「草とり」「田植え」「脱穀」と体験をした。とれた米は、可知井さんに精米していただき、合計で160kgも収穫できた。「米作り」の取組を「収穫を味わう会」で発表した。また収穫した米を、保護者に協力してもらい、おにぎりにして「収穫を味わう会」の参加者にふるまった。収穫した米は、おにぎりだけでなく米作りの協力者、保護者に配って、収穫の喜びを伝えた。

〔児童の様子〕



「田の草取り」



「脱穀作業」



「お礼の会」

- 田んぼに入るのが初めての子ばかりであった。はじめは怖々だった子どもたちも「田植え」や「田の草取り」を体験することで、田に入ることに慣れて、作業にも一生懸命取り組むことができた。脱穀では、郷土資料館に保存してある干歯こきを使って行い、昔の作業の大変さも味わった。また米作りを教えてくださいました地域講師の方への感謝の気持ちをもつことができた。

## 3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子

### (1) 「収穫を味わう会」において学びの成果を発表

- 「収穫を味わう会」は児童会が主体となって運営し、全学年の「学習発表」と「収穫を味わう」の二本立てで行った。はじめに、1年生から6年生まで、学年ごとにこれまでの学習の成果(収穫)を発表した。多くの学年が合唱や合奏、楽器演奏を行った。5年生はさらに、総合的な学習の時間の取組「米作り」の発表を行った。次に、地区ごとに保護者・祖父母・地域の老人会「鶴寿会」の方々と子どもたちが輪になり、おにぎりを食べながら、学習発表の感想や日ごろの様子について歓談した。おにぎりは、5年生児童がもみ蒔きから取り組んで育てた米を保護者と共に握ったものである。会の終わりに、米作りの指導者の可知井さん、学校田の管理人の稲垣さんに、5年生の代表がお礼の言葉と花束を渡した。また6年生がFBC花壇の取組で育てているパンジーを2鉢ずつを参加された方々全員に配布した。72名の方々に参加いただき、ふれあう活動を通して、多くの高齢者の方々とも世代を超えた交流を行うことができた。

### (2) 6年「花づくり」において育てた花を地域の方に配布



鶴寿会(鶴里町老人クラブ)の方への花の配布



「ふるさと夏祭り」で来場者へ花の配布



「子ども110番の家」への花の配布

## 4 活動による児童生徒の変容(伸長・成長等)

- 「収穫を味わう会」での発表を楽しみにするなど、地域の方とのふれあいを大切にする子が多い。
- 「ふるさと夏祭り」での来場者に花苗を配布するのは、夏休み中であったが6年生の児童全員が自主的に参加し、地域の方に100鉢を配布した。こうした姿から、児童が地域の行事を大切にしていること、お礼の気持ちを伝えたいことが分かる。
- 4年生の「ホタル学習」では、校区を流れる川の調査を通して、地域の川の汚れが進んでいることを知り、川を大切にしようという気持ちを高めた。またホタルの幼虫を放流するため飼育を行っているが、ホタルが舞う川にしようという意欲をもって取り組んでいる。